

令和4年度 主要事業評価シート

① 基本事項	計画コード	22046	事業名	三重大学亀山地域医療学講座支援事業		評価分類	A1	
	事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 補助等 <input checked="" type="checkbox"/> その他(寄附金)						
	施策体系	施策の大綱	02:健康で生きがいを持てる暮らしの充実		予算科目	会計	01:一般会計	
		基本施策	01:健康づくりの推進と地域医療の充実			款	04:衛生費	
		施策の方向	04:地域医療体制の充実			項	01:保健衛生費	
重点プロジェクト		-		目		01:保健衛生総務費		
事業期間	H 23 年度	~	R - 年度	主な根拠法令等	寄附講座の設置に関する協定書			

担当部署	
部	健康福祉部
課	健康政策課 健康づくりG

② 事業概要 (P)	事業の必要性(経緯・背景等)	事業の対象(誰に、何に対して)	事業の目的(どのような状態にしたいのか)	事業の内容(どのような取組を行うのか)
	市民が健康で安心して暮らせるよう、市立医療センターの基幹的機能の維持ならびに救急医療体制を整えるため、継続的に医師確保に努める必要がある。	市立医療センター受診者及び医療講座等の参加者	三重大学との連携を更に強化し、安定的に市立医療センターの医師を確保することで、地域の医療体制を強化する。	三重大学が、市立医療センターにおいて、内科(総合診療)の診療体制を整えながら、実際の診療を通して地域医療を担う医師(総合診療医)を養成するための教育や亀山市をフィールドとした地域医療に関する研究等を実施することに対し、寄附講座の設置に関する協定書に基づく寄付を行う。

年度		令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
事業計画		○三重大学への寄付	○三重大学への寄付	○三重大学への寄付	○三重大学への寄付	
活動実績 (計画通り実施できたか)		寄附講座設置協定に基づき、三重大学への寄付を行った。 講座における医師数の減少に伴い、市立医療センターへの常勤換算医師派遣数が減少した。このことにより、計画額から10,000千円の減額となった。 また、卒前医学教育及び卒後臨床研修を市立医療センターにて行うことで、将来、本市での診療を行う可能性のある医学生を養成した。				
③ 事業の実施状況 (P・D)	計画額	事業費	31,200千円	21,200千円	21,200千円	21,200千円
		国・県支出金				
		地方債				
		その他				
	一般財源	31,200千円	21,200千円	21,200千円	21,200千円	
決算額	事業費		21,200千円			
	国・県支出金					
	地方債					
	その他					
一般財源		21,200千円				
①期間内事業費(R4-7)		94,800千円	②期間外事業費(R8-)	-	①+②総事業費	-

(令和4年度予算額の内訳)

前年度からの繰越額	0千円
当年度の最終予算額	21,200千円
次年度への繰越額	0千円

指標名	説明等	種別	単位	区分	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
④ 指標 (C)	三重大学への寄附	活動		計画値	寄附実施	寄附実施	寄附実施	寄附実施
	実績値			21,200千円				
寄附講座で配置された医師数	市立医療センターに配置された常勤換算医師数	成果	人/日	計画値	2	1	1	1
				実績値	1			
				計画値				
				実績値				

⑤ 成果 (C)	事業実施により得られた成果(誰に(何に)対してどのような効果があったか)
B	地域医療学講座を設置することで、亀山市立医療センターにおける医師を確保し、外来・入院診療、救急医療、在宅医療などを行った。特に救急医療においては、亀山市の基幹的機能を果たすことができ、安定的な地域医療を提供することが出来た。また、亀山地域医療学講座の教員が中心となり、亀山市立医療センターにて在宅医療に関わる活動を開始し、訪問を順調に推移させることができた。
まずまず成果を得た	

事業の対象	事業の目的
市立医療センター受診者及び医療講座等の参加者	三重大学との連携を更に強化し、安定的に市立医療センターの医師を確保することで、地域の医療体制を強化する。

(再掲)

⑥ 課題 (C)	事業の達成状況等を踏まえた課題事項
	地域医療学講座における医師数の減少に伴い、亀山市立医療センターへの派遣常勤医師数が減少した。他の医療系大学等を含め、幅広い手法での支援策を長期的に考えていく必要がある。

⑦ 事業の展開 (A)	方向性	
	継続(拡大)	施策の更なる推進に向け、事業の拡大・充実を図る。
	改善・見直し内容	
	令和5年度で対応する(した)もの	令和6年度以降で対応するもの
	令和5年度で現行の協定期間が終了するため、令和6年度以降の継続に向けた三重大学との協議を医療センター事務局と連携しながら進めるを。	令和6年度からの協定等での対応を行ったうえで、長期的に安定した連携方策について、市立医療センターと連携して検討する。

【履歴】		令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	成果判定	B			
事業展開	継続(拡大)				

1次評価者	健康福祉部 健康政策課 健康づくりGL 小坂 聡子
最終評価者	健康福祉部 健康政策課長 林 秀臣